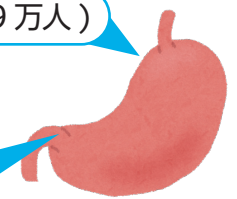


## 消化性潰瘍

消化性潰瘍は、胃酸や消化酵素が胃や十二指腸の壁を深く傷つけてしまうことによって起こる病気です。胃潰瘍と十二指腸潰瘍に分類され、総患者数は日本で約33万人以上いるとされています。今回はその中でも特に多い胃潰瘍を中心に解説します。

胃(約29万人)

十二指腸(約4万人)



### ■ 症状

#### 腹痛

自覚症状のうち90%の人に腹痛が見られます。中でも**みぞおち周辺に痛み**を感じます。胃潰瘍は食後に痛むことが多く、一方で十二指腸潰瘍は空腹時に腹痛が起こり、食後は改善する場合があります。



#### 胸やけ、吐き気、食欲不振

胸やけは胃液が逆流して起こる症状です。食欲不振から、体重減少を引き起こすこともあります。



#### その他(吐血や下血)

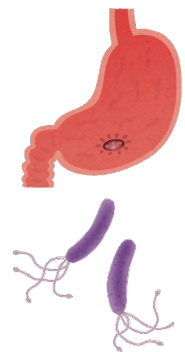
粘膜面がへこんだ状態(陥凹性病変)が進行し、潰瘍底の血管が破綻した場合は出血を伴います。胃潰瘍で少量の出血では黒い血を、大量の出血では鮮血を吐きます。下血はタール便と呼ばれる黒い便を認めます。これらの症状がある場合は早急に受診しましょう。



### ■ 原因

#### 1位 ヘリコバクター・ピロリ菌の感染

**胃潰瘍の最も多い原因**。ヘリコバクター・ピロリ菌とは、胃の粘膜に生息している細菌です。感染経路は幼少期の経口感染(口を介した感染)が大部分であると考えられ、日本人のピロリ菌感染者数は約3500万人と言われます。ピロリ菌に感染している人は胃粘膜に炎症が起こりやすく、胃粘液の分泌も低下することで潰瘍が発生しやすくなります。慢性の炎症が長期にわたると、**胃がんも発生しやすい**ことがわかっています。**ピロリ菌が発見された場合はピロリ菌除去治療をお勧めします**。



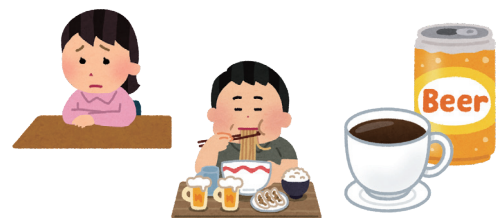
#### 2位 鎮痛剤(非ステロイド性抗炎症薬: NSAIDs)の使用

近年は**非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の内服**による胃潰瘍が増加しています。代表的なものに、ロキソニンがあります。ロキソニンSは薬局でも手軽に買える鎮痛剤ですが、胃粘膜を保護するプロスタグランジンという物質を抑える働きがあり、胃粘膜の保護力を弱め、結果的に潰瘍を形成しやすくなります。





#### 3位 その他

- 生活習慣や環境  
(睡眠不足、暴飲暴食、不規則な生活、ストレスなど)
- 喫煙、飲酒、コーヒーの過剰摂取など



## ■ 診断

<p>内視鏡検査 (胃カメラ)</p>	<p>従来の口から入れる<b>経口内視鏡検査</b>と、鼻から入れる<b>経鼻内視鏡検査</b>があります。 検査中に出血部位が見つければ止血したり、怪しい病変部位を生検(組織や細胞を採取すること)することもできます。</p>	 <p>経口内視鏡検査 経鼻内視鏡検査</p>
<p>X線造影検査 (バリウム検査)</p>	<p>バリウムと言われる造影剤を飲んで、胃壁の凹凸をX線で調べます。内視鏡検査に比べて不快感や苦痛が少ない検査方法です。</p>	

## ■ 治療法

<p>薬物療法</p>	<p>一般的には、<b>胃粘膜保護薬と胃酸分泌抑制薬を併用</b>します。2~3か月の治療で治療する方が多いです。症状が治まっても、医師の指示通り薬を飲み切ることが大切です。</p>
<p>その他</p>	<p><b>内視鏡検査</b> 出血を伴う潰瘍の場合は内視鏡下に止血を行います。潰瘍治療後も定期的な検査を行うことが大切です。</p> <p><b>生活習慣の改善</b> 胃の負担になるような脂っこいものや辛い食事を避け、禁酒・禁煙を行うことで潰瘍の改善を早めます。規則正しい生活を心がけることで、再発予防にもなります。</p>

### ピロリ菌の除去について

#### ピロリ菌の検査

1. 内視鏡検査：胃の組織を採取し、培養などして検査する
2. 内視鏡を用いない検査
  - 尿素呼気試験：検査薬を飲み、その前後の呼気(吐いた息)成分を調べます。ピロリ菌検査の中で**最も精度が高い**です。
  - その他：便検査や尿検査、血液検査でもピロリ菌がいるかどうか検査できます。



#### ピロリ菌除去治療

胃酸分泌抑制剤と、2種類の抗生物質を含めた3種類の内服を1週間行います。この内服で約80%の人はピロリ菌の除去に成功と言われています。内服治療の後は、上記検査を再度行い、ピロリ菌が除菌されているか再確認します。ピロリ菌除去後も、定期的に内視鏡検査などで胃の状態を確認することが大切です。



途中で内服を中断してしまうと、ピロリ菌が薬に対して耐性をもつようになり、次に除菌をしようと思った際に薬が効かなくなってしまうことがあります。医師の指示を守って内服しましょう。

【参考文献】 ・日本消化器学会 消化管潰瘍ガイドライン (<https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/kaiyou.html>)  
・日本消化器学会 患者さんと家族のためのガイド(消化管潰瘍ガイド) (<https://www.jsge.or.jp/guideline/disease/>)